

僕は振り向けなかった

六月十一日 木曜日 僕は振り向けなかった

今朝、三条京阪、バス乗り場での事。

いつもの様に僕が、電車から降りて、
三条京阪の南口の改札口を出ると、
彼女が立っていた。

この数日間、僕は彼女の存在を
忘れようと努力しはじめての、今日である。

以前なら、僕は必ず、視線を彼女に向けたが、
今朝は、まったく、知らぬ顔で、
僕は、急ぎ足で、彼女の前を通り過ぎて、
自分のバス停へ、足を運んだ。

そして、学校の仲間とバス停のところまで、
僕は、下を見ながら、バスが来るのをじっと待った。

しばらくして、僕は左に目をやって、はっとした。

僕のそば近くに立って、彼女がじっと僕を見つめていた。
まゆをひそめて、僕を見ている様に見えた。

その瞬間、思わず、僕の目は彼女の目に
釘づけになってしまった。

その時、一瞬、僕の頭は真っ白になった。